

中山第二水源地の整備を計画

9月定例会で常任委員会に付託された議案の審議内容(抜粋)

文教経済常任委員会

●令和2年度大崎町水道事業会計補正予算(第1号)
(令和2年度大崎町水道事業会計補正予算に関する記事については3ページにも掲載)

質 中山第二水源地では、施設の構造上の問題から塩素処理に苦慮しているとのことであるが、中山第二水源地以外の施設ではどのような状況なのか。

答 水道水の滅菌消毒については、滅菌ポンプにより次亜塩素をタンクあるいは送水管に直接注入する方法により行なっている。中山第二水源地においては、滅菌器が設置されているポンプ室から調整槽まで50メートルぐらい離れており、次亜塩素が流れている配管が一部露出している状況であるため、夏場等になると気温の上昇に伴って次亜塩素自体の温度も上昇することから、パイプの中に気泡が発生しその気泡自体が支障となっており、塩素が流れにくくなる現象が起こっている。このような状況を踏まえ、気泡を抜く等の対応をとりながら常に監視し、水道法に定められた最低の塩素濃度を保つようになっている状況であることから、次亜塩素を使った滅菌消毒に関して非常に苦慮している状況である。

質 今回の補正予算では実施設計業務委託料が計上されているが、令和3年度に計画されている工事等の費用は概算でどれくらいになるのか。

答 施設については、直径8メートル、高さが13メートルぐらいのステンレス製のタンクで、容量としては約560トンを想定している。費用については、概算で1億3000万円程度になると考えているが、今回補正予算に計上した実施設計業務委託を実施することによって、細部の設計が把握できることから、工事費等を含めた正確な費用については、細部の設計が完成した段階で把握できると考えている。

●令和2年度大崎町公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)

質 アナログ回線をデジタル回線に取り替えるという無線通報装置の取替修繕の具体的な詳細は。

答 町内には17箇所マンホールポンプ場があり、マンホールポンプ場の情報をアナログ方式の無線で親局に送信するという役割を担っているが、電波法の改正により、アナログの無線が使用できなくなることから、デジタル無線方式に変えるため必要な予算を計上したものである。なお、17箇所のマンホールポンプ場のうち6箇所については、アナログ無線ではなく通常の携帯電話と同じ通信方式を使っていることから、取り替える必要がない状況である。